

— 部門別の動き —

部門別の動き

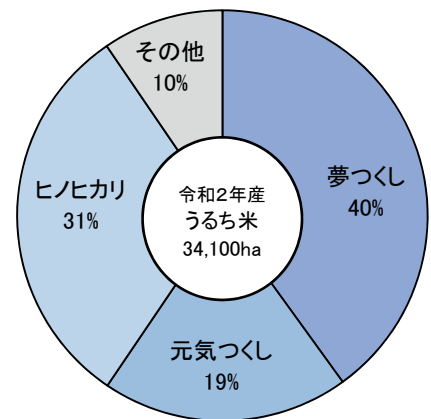
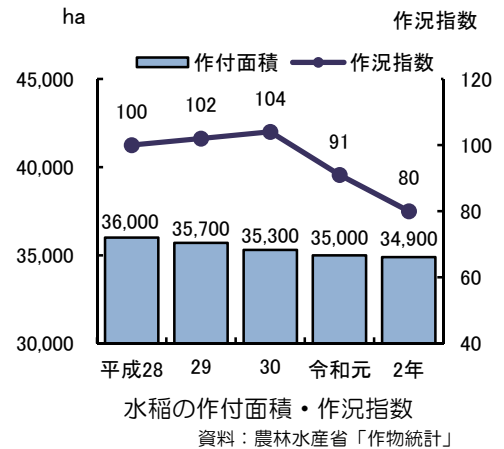
1 農業

(1) 水田農業

○米

(作況指数は80の「不良」)

- ・作付面積は、前年に比べ100ha減の34,900ha。生産量は、13,700t減の145,200t。10a当たりの収量は416kgで、作況指数は80の「不良」。
- ・これは、7月が平年に比べ低温、日照不足で経過し、全もみ数が少なくなったことに加え、トビイロウンカの発生や9月上旬の台風による倒伏、9月上旬から中旬にかけての日照不足で粒の充実が不良となったことが主な要因。
- ・県育成品種の「夢つくし」と「元気つくし」の作付面積は、うるち米全体の約6割を占める。高温でも品質が優れる「元気つくし」は、前年に比べ400ha増の6,630ha。
- ・「実りつくし」は、前年に比べ30ha減の370ha。

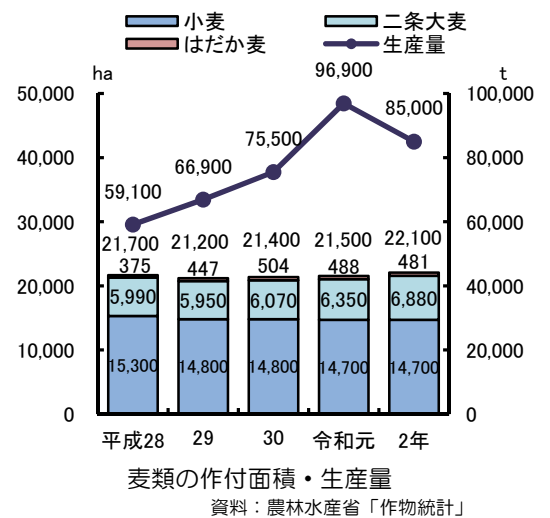


○麦

(麦は3年連続で豊作)

- ・作付面積は、朝倉市や久留米市といった地域で増加し、前年比600ha増の22,100ha。生産量は85,000tで、大豊作だった前年よりも11,900t少ないものの、**平年***の70,000tを上回り、3年連続で豊作。
- ・これは、適期播種や排水対策の徹底で、穂数を多く確保できたことに加え、生育後半は天候に恵まれ粒の充実が良好だったことが主な要因。
- ・小麦の生産量は、平年に比べ5,000t増の56,900t、二条大麦は平年に比べ9,600t増の26,500t。
- ・ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、80ha増の1,840ha。生産量は平年に比べ1,800t増の6,700t。

※生産量の平年値：平成25年産～令和元年産の平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。

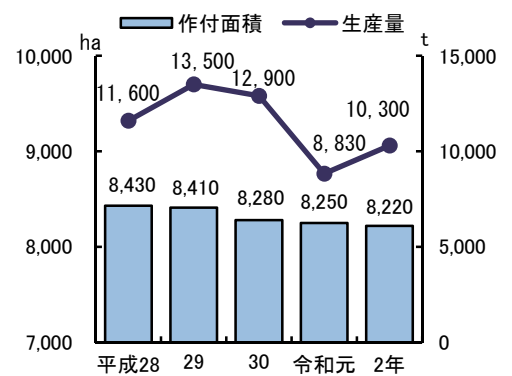


○大豆

(大豆の作付面積は前年並み、生産量は1,470t増)

- ・作付面積は、ほぼ前年並みの8,220ha。生産量は、平年※の12,520tよりも2,220t少ないものの、前年に比べ1,470t増の10,300t。
- ・これは、梅雨明けの遅れで、播種も遅れたことに加え、9月上旬の台風により影響を受けたものの、生育後半の多日照により、粒の充実が良好となったことが主な要因。
- ・上位等級（1等・2等）の割合は86.2%で、品質は平年並み。

※生産量の平年値：平成25年産～令和元年産の平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。



大豆の作付面積・生産量

資料：農林水産省「作物統計」

トピック

○ 機械操作実践講座で水田農業のオペレーターを育成

- ・農業法人の従業員や新規就農者は、農業機械の操作技術に不慣れなうえ、技術の習得にも時間を要することから、麦・米・大豆の生産安定を図るためには、基本的な操作技術の早期習得が課題。
- ・このため、県では、農業法人の従業員や新規就農者を対象に、機械操作実践講座を県内3か所（糸島市、久留米市、行橋市）で、延べ6回開催。
- ・講座は、播種前の排水対策や耕起、播種といった実際の作業時期に合わせて開催し、機械操作の実習に加え、農作業安全や機械整備の講習を実施。
- ・今後も、地域の農作業を担うオペレーターの育成支援により、米、麦、大豆の生産拡大を推進。



排水対策作業時の機械整備講習
(久留米市)



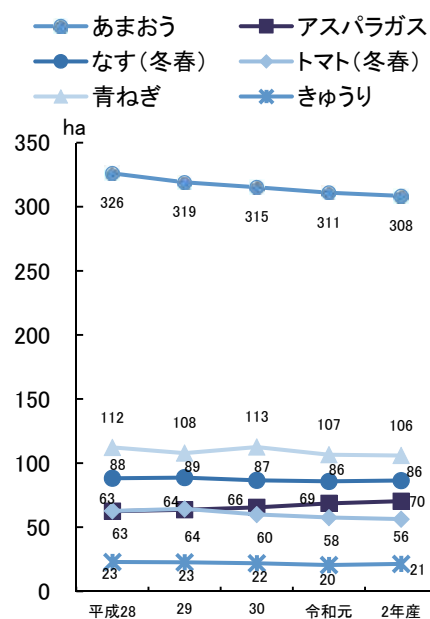
耕起作業の機械操作実習
(糸島市)

(2) 園芸・特産

○野菜

(「あまおう」の販売単価は17年連続で日本一)

- いちご「あまおう」の作付面積は、前年産に比べ3ha減の308ha。販売量は、収穫期間を通して前進化傾向で推移したため、前年産に比べ2%増の10,582t。販売単価は、1,496円/kgとなり、17年連続日本一。販売金額は過去2番目の158億円となり、5年連続で150億円を突破。
- なすは、授粉作業の省力化と収量向上を目的とした省力性品種の導入率が、前年産から5ポイント増加の93%。
- アスパラガスの作付面積は、前年産に比べ1ha増の70ha。1戸当たりの作付面積は19.5aと、平成23年産と比べて1.2倍に拡大。
- 露地野菜の令和元年産作付面積は、7・8月の大雨及び台風17号の影響を受け、前年産から76ha減の3,393ha。



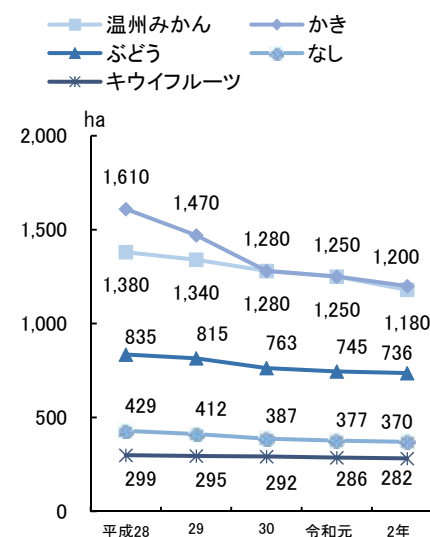
主要野菜の系統共同販売面積

資料：JA全農ふくれん調べ

○果樹

(「早味かん」をはじめ、県育成品種の栽培が拡大)

- 温州みかんの栽培面積は、前年に比べ70ha減の1,180ha。高糖度みかんの生産拡大に向け、県内で育成された「早味かん」や「北原早生」をはじめとする優良品種への改植を推進。この2品種の栽培面積は、前年に比べ11ha増の171ha。
- かきの栽培面積は、前年に比べ50ha減の1,200ha。県育成品種「秋王」の栽培面積は、前年に比べ1ha増の39ha。安定生産のための技術の普及により、引き続き生産の拡大を推進。
- キウイフルーツの栽培面積は、前年に比べ4ha減の282ha。県育成品種の「甘うい」の栽培面積は、前年に比べ1ha増の19ha。樹冠の拡大に伴い着果量が増加し、販売量は前年に比べ8t増の219t。



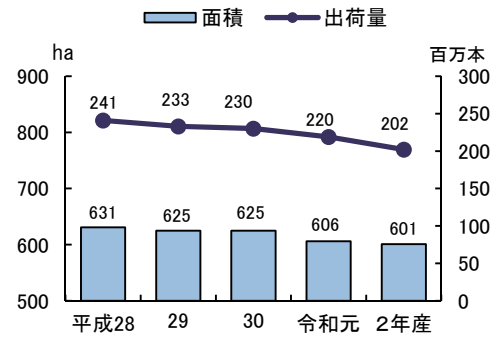
果樹の栽培面積

資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

○花き・花木

(花きの作付面積は1%の減、出荷量は8%の減)

- ・花きの作付面積は、601ha で前年産に比べの1%減。作付面積全体の4割を占めるキクは223ha で6%減。
- ・花きの出荷量は、前年産に比べ8%減の202百万本。これは、コロナ禍によるイベントの自粛で需要が減少し、出荷調整が行われたこと、7月の日照不足と8月の高温で、秋期の生産量が減少したことによるもの。



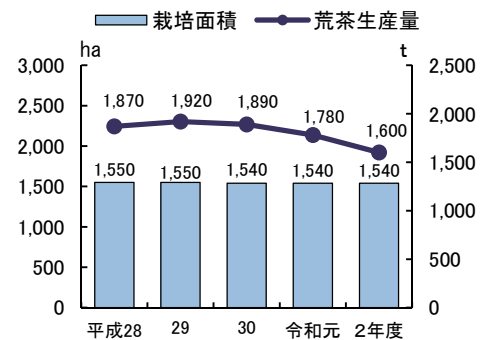
花き出荷量及び面積

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

○特産（茶）

(一番茶（煎茶・玉露）価格は全国一)

- ・八女茶は、令和2年度の全国茶品評会「玉露の部」において、7年連続で農林水産大臣賞を受賞。上位20位まで独占。また、八女市が20年連続で産地賞※を受賞。
- ・伝統本玉露の栽培面積は、前年度比1.4ha減の14.2ha。「さえみどり」や「おくみどり」といった優良品種への改植面積は、前年度比19ha増の192ha。
- ・荒茶の生産量は、前年度に比べ10%減の1,600t。これは、4月の夜温低下で生育が緩慢となり、新芽が十分に伸長しなかったため。
- ・一番茶（普通煎茶）の荒茶価格は、前年度比3%減も2,980円/kgで全国一に。また、一番茶（玉露）の荒茶価格は、前年度比4%増の5,183円/kgで全国一を維持。



茶の栽培面積と荒茶生産量

資料：栽培面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」
荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞するもので、同一市町村から3点以上出品があり、審査成績の上位3点の合計審査得点をもって決定する。

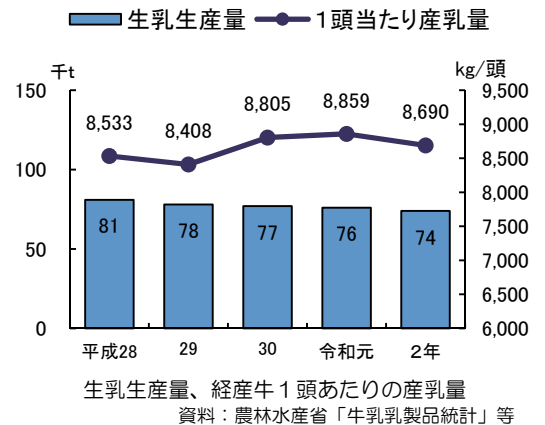
(3) 畜産

○乳用牛

(生乳生産量は2,410 tの減)

- ・乳用牛飼養頭数は、乳用雌牛の高騰や借腹での肉用牛生産により、後継牛が確保できず、前年に比べ200頭減の12,100頭。1戸当たりの飼養頭数は、前年に比べ1頭増の61頭。
- ・生乳生産量は、飼養頭数の減少により、前年に比べ2,410 t減の73,603 t。
- ・令和元年の高能力牛*の飼養頭数は、優良受精卵移植の改良や高能力牛の導入により、前年に比べ166頭増加の582頭。搾乳牛全体に占める割合は12.5%。
- ・経産牛1頭当たりの産乳量は、前年に比べ169kg減の8,690kg。

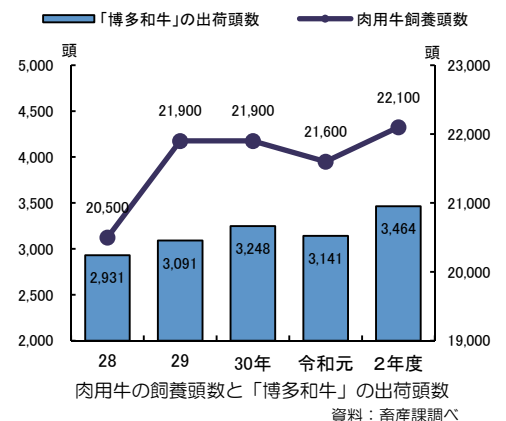
※高能力牛：年間産乳量が12,000kg以上の乳牛のこと。



○肉用牛

(「博多和牛」出荷頭数は323頭増の3,464頭)

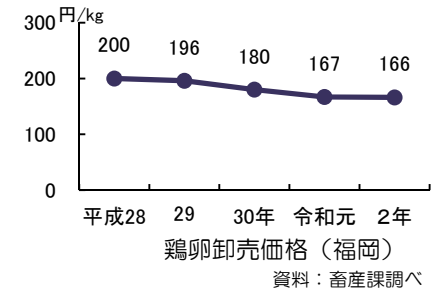
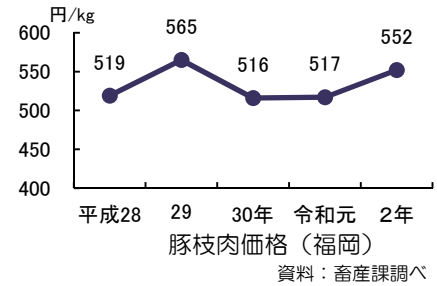
- ・肉用牛飼養戸数は、前年に比べ7戸増の198戸。飼養頭数は、和牛繁殖雌牛の増加により500頭増の22,100頭。1戸当たりの平均飼養頭数は、前年並みの111.6頭。
- ・「博多和牛」の出荷頭数は、前年度に比べ323頭増の3,464頭。
- ・枝肉価格は、和牛では令和2年1月～2月に前年を下回って推移し、さらに3月以降、コロナ禍で大幅に下落したものの、11月から回復。交雑種も、和牛の価格下落の影響を受け、低下傾向で推移したものの、11月から回復。乳用種は、例年より低い水準で推移。年平均枝肉価格は前年に比べ和牛は12%低下、交雑種は9%低下、乳用種は8%低下。



○養豚・養鶏

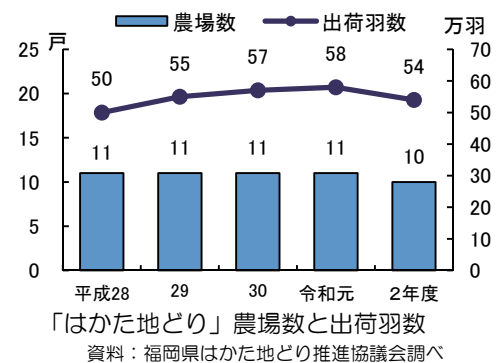
(豚の飼養頭数は83,391頭、豚枝肉価格は前年比7%上昇)

- 豚の飼養頭数は、前年より1,091頭増の83,391頭。豚肉価格は、コロナ禍の外出自粛で、家庭消費が好調に推移したことから、前年に比べ7%上昇の552円/kg。
- 鶏卵生産量は、前年に比べ1,304t減の51,121t。これは、暑熱の影響や廃業によるもの。一方、鶏卵価格は、前年並みの166円/kg。



(「はかた地どり」と「はかた一番どり」は共に減少)

- 肉用鶏飼養羽数は、飼養戸数の減少により、前年に比べ13万羽減の113万羽。
- 「はかた地どり」の令和2年度の出荷羽数は、農場数の減とコロナ禍での飲食店需要の低下により、前年度比36千羽減の539千羽。
- 「はかた一番どり」の2年度出荷羽数も同様に前年度比34千羽減の527千羽。



○家畜衛生

(関係機関との連携で家畜防疫体制を強化)

- 令和2年10月、高病原性鳥インフルエンザの発生を想定した実地防疫演習を築上町で実施。市町や関係機関と連携し、動員人数や資材の確保、鶏の処分方法について確認。
- 11月には本県で初めて高病原性鳥インフルエンザが発生。これを受け、防疫資機材の備蓄数量を拡大し、家畜防疫体制を強化。



高病原性鳥インフルエンザの防疫演習 (築上町)

(4) 福岡県農業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全 国 シェア(%)	全 国 ランク	備 考
農 家 数		戸	41,351	1,747,079 (1,709,485)	2.4	19	2020年農林業センサス 注：()は都府県
	うち販売農家	戸	27,187	1,027,892	2.6	17	
	自給的農家	戸	14,164	719,187	2.0	20	
農 業 経 営 体 数		経営体	28,735	1,075,705 (1,040,792)	2.7	17	2020年農林業センサス 注：()は都府県
	うち個人経営	経営体	27,239	1,037,342	2.6	17	
	団体経営	経営体	1,136	38,363	3.0	9	
基幹的農業従事者数		人	38,077	1,363,038	2.8	14	2020年農林業センサス (個人経営体)
	うち女性の割合	%	40.3	39.7	—	—	
	65歳以上の割合	%	66.2	69.6	—	—	
耕 地 面 積		ha	79,700	4,372,000 (3,229,000)	1.8	15	令和2年耕地面積調査 注：()は都府県
	うち水田面積	ha	64,200	2,379,000 (2,157,000)	2.7	14	
	畑面積	ha	15,600	1,993,000	0.8	26	
水 田 率		%	80.6	54.4 (66.8)	—	13	
1戸当たり平均耕地面積		a	192.7	250.2 (188.9)	—	21	注：1戸当たり平均耕地面積は耕地面積/農家戸数で算出
農 業 産 出 額		億円	2,027	89,387	2.3	16	令和元年生産農業所得 統計 注：全国は、都道府県の合計値
	うち米	億円	376	17,484	2.2	16	
	麦類	億円	34	543	6.3	3	
	豆類	億円	15	773	1.9	7	
	野菜	億円	702	21,515	3.3	11	
	果実	億円	239	8,399	2.8	10	
	花き	億円	168	3,264	5.1	3	
	種苗・苗木類	億円	56	718	7.8	1	
	工芸農作物	億円	26	1,699	1.5	13	
畜産	億円	389	32,344	1.2	23		
乳用牛飼養頭数		頭	12,100	1,352,000	0.9	17	令和2年畜産統計調査 ※豚、採卵鶏、ブロイラーは H31年畜産統計調査(R2 年が調査未実施年のため)
肉用牛飼養頭数		頭	22,100	2,555,000	0.9	26	
豚飼養頭数		頭	82,300	9,156,000	0.9	26	注：採卵鶏は成鶏めす 羽数
採卵鶏飼養羽数		千羽	2,800	141,792	2.0	6	
ブロイラー飼養羽数		千羽	1,263	138,228	0.9	13	

(5) 福岡県農業の全国的地位

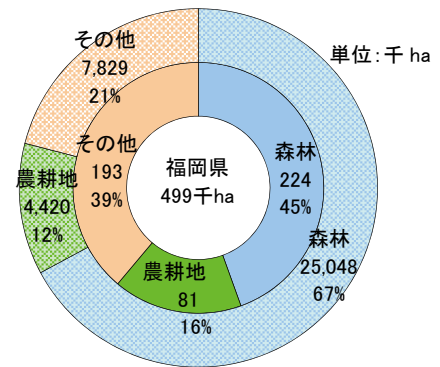
項目	区分	単位	全国順位 全国計	主産県					全国シェア		全国面積 県面積 (単位:ha)
				1	2	3	4	5	面積	収穫量	
大豆	豆	t	3	北海道	宮城	福岡	佐賀	秋田			141,700
			218,900	93,000	18,800	10,300	10,100	8,650	6%	5%	8,220
麦類	4	計	2	北海道	福岡	佐賀	栃木	愛知			276,200
		t	1,171,000	638,100	85,000	80,800	43,900	30,300	8%	7%	22,100
	(うち小麦)	t	2	北海道	福岡	佐賀	愛知	三重			212,600
		t	949,300	629,900	56,900	39,100	29,800	23,100	7%	6%	14,700
	(うち二条大麦)	t	3	佐賀	栃木	福岡	岡山	北海道			39,300
		t	144,700	40,800	30,900	26,500	8,340	7,600	18%	18%	6,880
	(うちはだか麦)	t	4	愛媛	香川	大分	福岡	岡山			6,330
		t	20,400	7,010	2,870	2,340	1,640	1,030	8%	8%	481
野菜	いちご	t	2	栃木	福岡	熊本	長崎	静岡			5,110
		t	165,200	25,400	16,700	12,500	11,100	10,600	9%	10%	439
	みずな	t	2	茨城	福岡	京都	兵庫	埼玉			2,480
		t	44,400	22,800	3,390	2,370	1,930	1,590	9%	8%	223
	冬春なす	t	3	高知	熊本	福岡	愛知	群馬			1,070
		t	119,700	39,700	26,700	14,700	7,440	6,860	10%	12%	104
	セルリー	t	3	長野	静岡	福岡	愛知	香川			552
	t	31,400	13,400	6,080	3,450	2,920	955	8%	11%	45	
こまつな	t	3	茨城	埼玉	福岡	東京	群馬			7,300	
	t	114,900	20,400	14,300	12,000	8,270	6,920	10%	10%	703	
しゅんぎく	t	5	大阪	千葉	群馬	茨城	福岡			1,830	
	t	26,900	3,140	2,790	2,380	2,130	2,090	9%	8%	156	
冬春トマト	t	5	熊本	愛知	栃木	千葉	福岡			3,920	
	t	400,400	110,600	39,900	28,600	17,500	17,200	3%	4%	124	
果樹	キウイフルーツ	t	2	愛媛	福岡	和歌山	神奈川	静岡			1,900
		t	25,300	6,000	5,230	3,040	1,480	949	14%	21%	263
	かき	t	3	和歌山	奈良	福岡	岐阜	愛知			18,900
		t	208,200	43,400	31,300	16,600	14,300	10,500	6%	8%	1,220
ぶどう	t	5	山梨	長野	山形	岡山	福岡			16,600	
	t	172,700	36,900	31,700	16,400	15,800	7,640	4%	4%	735	
いちじく	t	5	和歌山	愛知	大阪	兵庫	福岡			934	
	t	11,861	2,178	1,997	1,367	1,342	1,035	9%	9%	81	
花き	洋ラン類(切花)	千本	2	徳島	福岡	埼玉	沖縄	千葉			109
		千本	13,200	2,010	2,000	1,240	1,210	989	10%	15%	11
	ガーベラ(切花)	千本	2	静岡	福岡	和歌山	愛知	長崎			80
		千本	127,000	52,900	17,000	12,300	8,980	7,130	15%	13%	12
	きく	千本	3	愛知	沖縄	福岡	鹿児島	長崎			4,314
		千本	1,300,000	440,700	234,800	80,100	66,700	49,900	5%	6%	223
トルコギキョウ	千本	3	長野	熊本	福岡	静岡	山形			411	
	千本	88,000	13,000	10,500	7,660	4,140	4,100	9%	9%	38	
洋ラン類(鉢物)	千鉢	3	愛知	熊本	福岡	千葉	山梨			174	
	千鉢	12,300	2,940	1,110	1,100	781	726	9%	9%	16	
ばら	千本	4	愛知	静岡	山形	福岡	愛媛			291	
	千本	200,800	32,100	19,200	14,700	13,800	11,100	6%	7%	17	
その他作物 (種苗・苗木等)	億円	1	福岡	三重	愛媛	愛知	北海道			—	
	億円	718	56	52	48	42	39	—	8%	—	
特産	茶	億円	5	鹿児島	静岡	三重	京都	福岡			39,100
		億円	822	252	251	66	66	35	4%	2%	1,540
	い草	千枚	2	熊本	福岡					424	
	千枚	2,260	2,240	20	注：全国計は主産県の合計			1%	1%	4	

注：大豆：2年産作付面積・収穫量、麦類：2年産作付面積(子実用)・収穫量、野菜：元年産作付面積・収穫量
 果樹：元年産結果樹面積(いちじくは30年産栽培面積)・収穫量、花き：2年産作付(収穫)面積・出荷量、
 種苗・苗木等：元年産出額、茶：元年産出額、2年産作付面積・荒茶生産量、い草：2年産畳表生産量・作付面積・収穫量

2 林業

○ 森林率は45%、全国より22ポイント低い

- ・ 本県の森林面積は224千haで、県土面積に対する森林面積の割合である森林率は45%。
- ・ これは全国の森林率67%より22ポイント低い。



外円(全国) 37,297 千ha
内円(福岡県) 499 千ha

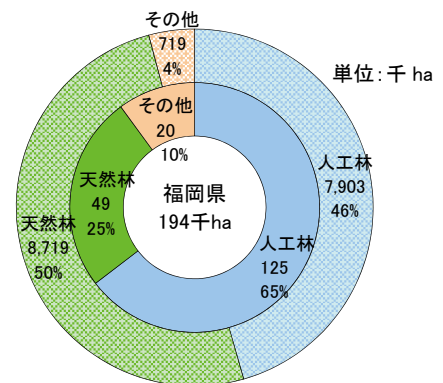
国土・県土に占める森林の面積

(全国：平成28年度末、福岡県：令和3年4月1日現在)
資料：地域森林計画書、林野庁「森林資源現況調査」等

○ 人工林率は65%、全国2位

- ・ 本県の民有林における人工林面積は125千haで、民有林面積に対する人工林面積の割合である人工林率は65%。これは全国の46%より19ポイント高くなっており、全国2位。
- ・ 人工林と天然林を合わせた材積[※]は59,958千m³。

※材積：木材の体積で、単位は立方メートル。



外円(全国の森林計画対象民有林) 17,341 千ha
内円(福岡県の森林計画対象民有林) 194 千ha

人工林・天然林別の森林面積

(全国：平成28年度末、福岡県：令和3年4月1日現在)
資料：地域森林計画書、林野庁「森林資源現況調査」

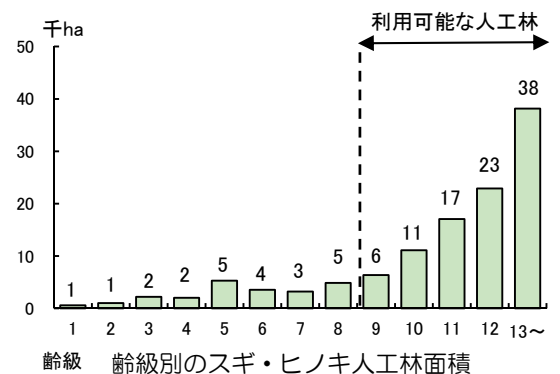
人工林・天然林別の材積

	人工林	天然林	計
全国	2,792,601	1,217,101	4,009,702
福岡県	56,102	3,856	59,958

(全国：平成28年度末、福岡県：平成3年4月1日現在)
資料：地域森林計画書、林野庁「森林資源現況調査」

○ スギ・ヒノキ林の8割以上が利用期を迎える

- ・ 人工林125千haのうち、スギ・ヒノキ林は118千ha。
- ・ このうち本格的に利用可能な41年生以上の面積は96千haで、全体の8割以上を占める。

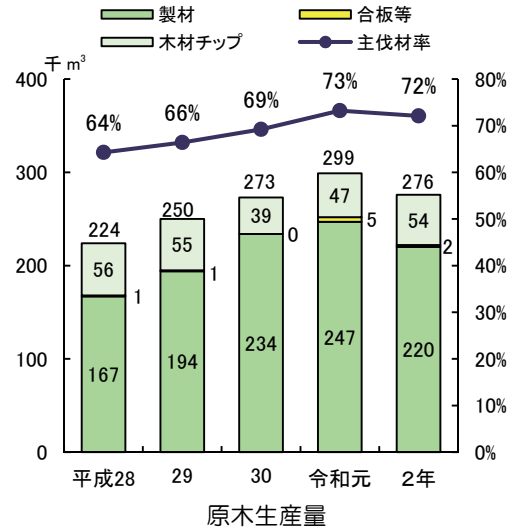


注：年齢の単位は5年
資料：地域森林計画書

(1) 林業

(原木生産量は2万3千m³の減少)

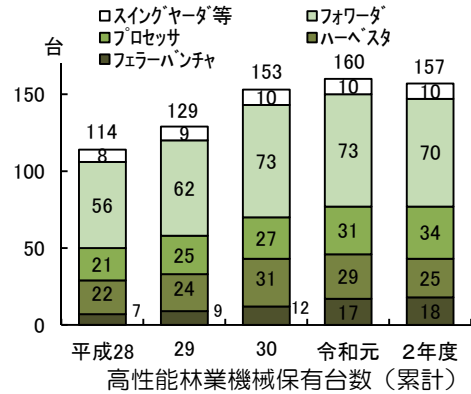
- 令和2年の原木生産量は、前年に比べ8%減の27万6千m³。これは、コロナ禍で木材の主な需要先となる住宅の着工戸数が減少したことに伴い、木材価格が下落したことが要因。
- 主伐の推進により、原木生産に占める主伐材の割合は72%まで増加。
- 原木の用途別では、製材用が22万m³、合板等用が2千m³、木材チップ用が5万4千m³。



資料：林業振興課調べ

(高性能林業機械の保有台数は157台)

- 令和2年度の高性能林業機械の保有台数は、157台と横ばい。
- これは、林業経営体に、主要な高性能林業機械の導入が進んだことによるもの。
- 近年は、大型化・多機能化した機械への更新が進んでおり、従来の約2倍の積載量を持つフォワーダや、伐採・集積機能に加え、土砂掘削機能を併せ持ち森林作業道の開設も可能なフェラーバンチャが導入されている。



資料：林業振興課調べ

高性能林業機械の種類

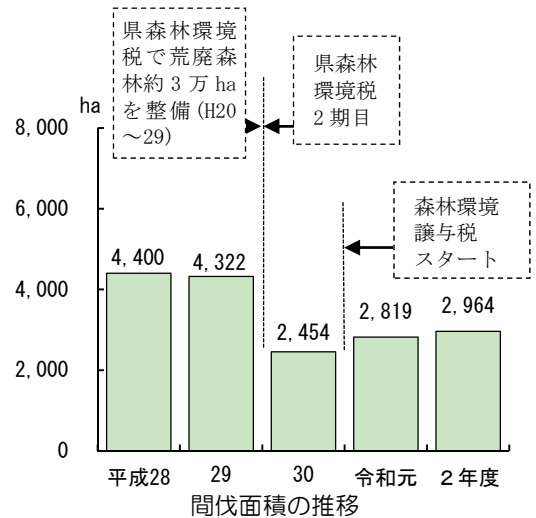
スイングヤーダ		旋回可能な車両にウインチを搭載し、ワイヤーを使った架線集材を行う
フォワーダ		玉切りした木材をグラブクレーンで荷台に積んで運ぶ
プロセッサ		集材されてきた材の枝払い、測尺、玉切りを行う
ハーベスタ		立木の伐倒、枝払い、玉切りと玉切りした材の集積作業を行う
フェラーバンチャ		立木を伐採し、切った木をそのままつかんで集積する

(間伐面積は 2,964ha に拡大)

- ・令和 2 年度の間伐面積は、前年度に比べ 145ha 増の 2,964ha。
- ・これは、県森林環境税^{*}を活用した間伐や、令和元年度から譲与が始まった森林環境譲与税^{*}を活用した、市町村独自の間伐の取組が進んだことによるもの。

※県森林環境税：森林を健全な状態で次世代へ引き継ぐため、荒廃した森林の整備に必要な財源として、平成 20 年度に県が創設。

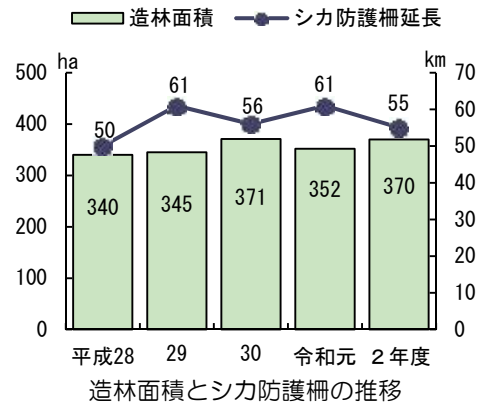
※森林環境譲与税：国の温室効果ガス排出目標の達成や災害防止を図る目的で、地方公共団体が行う森林整備や関連事業の推進に必要な地方財源として、令和元年度に国が創設。



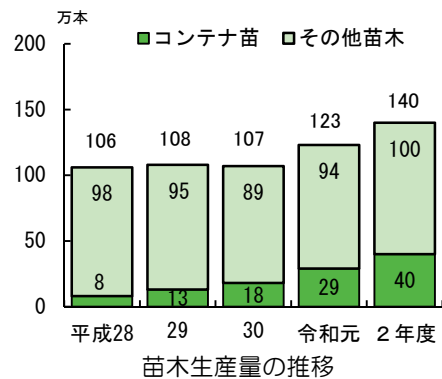
資料：林業振興課調べ

(造林面積は再造林が進み 370ha)

- ・令和 2 年度の造林面積は、主伐後の再造林が進み、前年度に比べ 18ha 増の 370ha。
- ・シカによる苗木の食害が多い地域では、苗木を保護するためのシカ防護柵を併せて設置。2 年度 of 設置延長は、シカ被害が多い犬鳴山系や英彦山系の地域での再造林が減少したため、前年度に比べ 6km 減の 55km。
- ・造林に必要な苗木の生産量は、前年度に比べ、17 万本増の 140 万本。うち、年間を通じて植栽可能なコンテナ苗は、40 万本まで増加。



資料：林業振興課調べ



資料：林業振興課調べ

トピック

○コンテナ苗の供給拡大に向け県営採種穂園に親木を植栽

- ・県では、優良な苗木を安定的に供給するため、小郡市に県営採種穂園を設置。
- ・令和 2 年度は、コンテナ苗の供給を進めるため、同園において、苗木の元となる挿し穂を採取する親木を 1,420 本植栽。
- ・今後は、親木からの挿し穂を生産者へ供給するとともに、技術研修を通じてコンテナ苗の増産を図る。

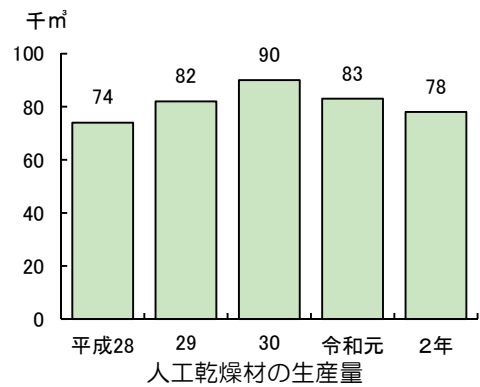


県営採種穂園 (小郡市)

(2) 木材産業

(人工乾燥材生産量は前年に比べ5千㎡減)

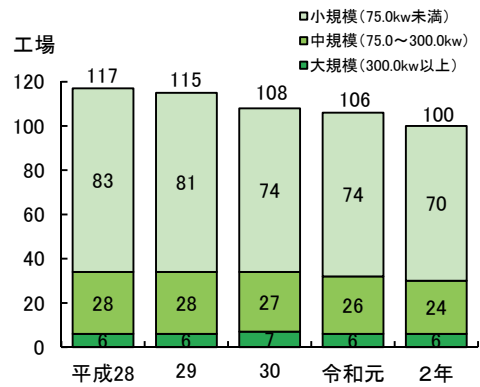
- ・住宅メーカーや工務店が求める、曲がりや割れの少ない人工乾燥材の令和2年の生産量は、前年に比べ5千㎡減の7万8千㎡。
- ・これは、コロナ禍で人工乾燥材の主な需要先である住宅の着工戸数が減少し、木材需要が低下したことによるもの。
- ・県内の製材工場で生産している製材品に占める人工乾燥材の割合は、前年並みの32%。



資料：林業振興課調べ

(製材工場数は100工場)

- ・令和2年の製材工場数は、前年に比べ6工場減の100工場。
- ・これを製材品の製造能力別にみると、大規模工場は横ばいで、中規模工場が2工場、小規模工場が4工場減少。

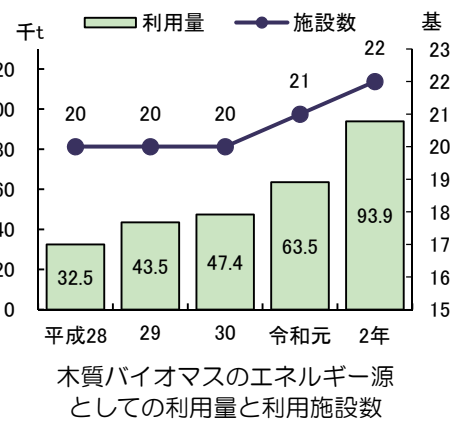


資料：農林水産省「木材統計」

(木質バイオマスのエネルギー源としての利用量が増加)

- ・木質バイオマス※をエネルギー源として利用する施設は、主に温浴施設や発電施設、製材工場の人工乾燥施設で、施設数は前年から1施設増の22施設。
- ・令和2年の利用量は、前年に比べ3万t増の9万4千t。
- ・これは、間伐材を主とした未利用材を燃料とする木質バイオマス発電所が、筑前町で稼働を始めたことによるもの。

※木質バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源で、木本類（枝葉を含む）、竹、製材等残材、木質チップ、薪、木質ペレット、建築資材廃棄物。

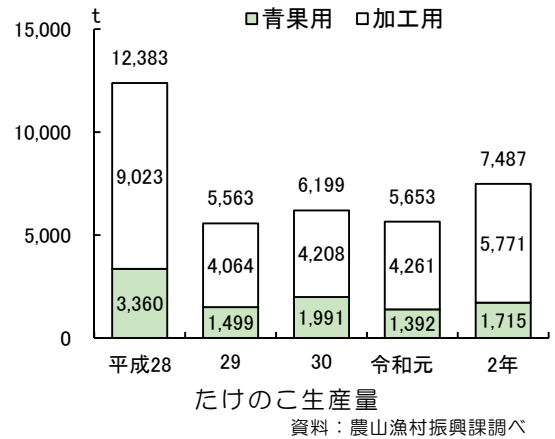


資料：林業振興課調べ

(3) 特用林産物等

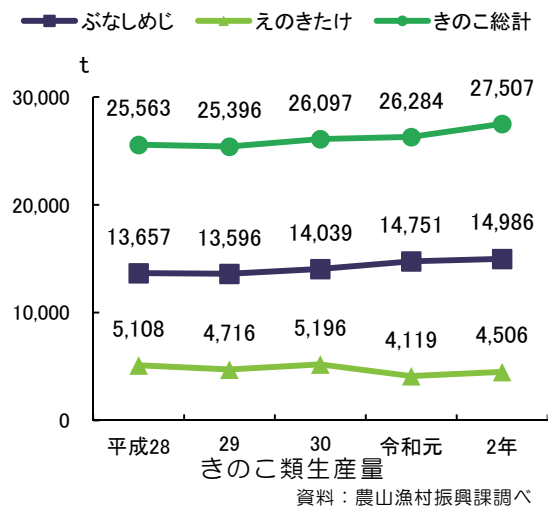
(たけのこ生産量は32%増の7,487 t)

- 令和2年のたけのこの生産量は、前年に比べ32%増の7,487 t。
- これは主産地の八女地域が表年*であったことや気候条件に恵まれたことによるもの。
*表年と裏年：竹は、通常2年に一度葉変わりするため、豊作年（表年）と不作年（裏年）が交互に現れる。

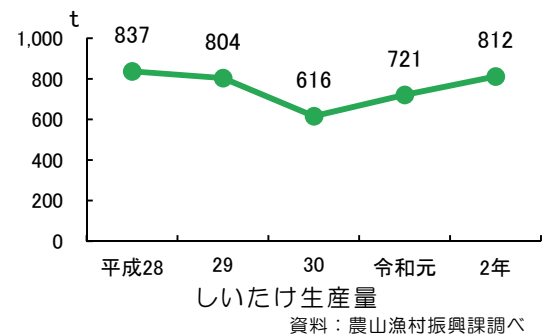


(きのこ類の生産量は5%増、しいたけの生産量は13%増)

- 令和2年のぶなしめじの生産量は、前年に比べ2%増の14,986 t。えのきたけの生産量は、前年に比べ9%増の4,506 t。きのこ類*全体では前年に比べ5%増の27,507 t。
- しいたけの生産量は、前年に比べ13%増の812 t。
- これは、コロナ禍の外出自粛で、家庭での消費が増加したことが要因。県では更なる需要拡大に向け、「福岡県産しいたけロゴマーク」を活用し、県産しいたけの魅力のPRにも取り組む。



※きのこ類：生しいたけ、乾しいたけ、なめこ、えのきたけ、ひらたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、きくらげ類、ぬめりすぎたけ、ゆきれいたけ、王リンギを含む。



(4) 福岡県林業の主要指標

区分	単位	福岡県	全国	全国シェア (%)	全国ランク	備考
民有林の状況						
面積	千ha	194	17,341	—	—	県 : 令和3年4月1日現在(地域森林計画書) 全国: 平成29年3月末現在(森林資源現況調査: 林野庁)
材積	千m ³	59,958	4,009,892	—	—	
造林面積	ha	370	21,568	—	—	県 : 令和2年度実績(林業振興課調べ) 全国: 平成30年度実績(2020年森林・林業統計要覧: 林野庁)
間伐面積	ha	2,964	269,000	—	—	
主伐面積	ha	608	76,110	—	—	県 : 令和2年度実績(農山漁村振興課調べ) 全国: 平成30年度実績(2020年森林・林業統計要覧: 林野庁)
林道延長(自動車道)	km	1,591	93,471	—	—	
林道密度	m/ha	8.2	5.4	—	—	県 : 令和3年3月末現在(農村森林整備課調べ) 全国: 令和元年3月末現在(2020年森林・林業統計要覧: 林野庁)
林業・木材産業の状況						
森林組合数	組合	9	613	—	—	県 : 令和2年3月末現在(団体指導課調べ) 全国: 令和2年3月末現在(令和元年度森林組合統計: 林野庁)
森林組合員数	人	29,142	1,495,048	—	—	
製材工場数	工場	100	4,115	—	—	県 : 令和2年3月末現在(団体指導課調べ) 全国: 令和2年3月末現在(令和元年度森林組合統計: 林野庁) 令和2年12月末現在(令和2年木材統計: 農林水産省)
主な林産物生産量						
素材	千m ³	276	19,882	1.4	21	令和2年次実績(令和2年木材統計: 農林水産省、林業振興課調べ)
しいたけ	t	812	87,971	0.8	31	
ぶなしめじ	t	14,986	118,597	12.4	3	県 : 令和2年次実績(農山漁村振興課調べ) 全国: 令和元年度実績(令和元年特用林産基礎資料: 林野庁) ※しいたけは、生に換算した重量
えのきたけ	t	4,506	128,974	3.2	4	
たけのこ	t	7,487	22,285	25.4	1	
木ろう	t	10	26	23.5	3	
林業産出額						
木材生産	千万円	1,400	45,492	—	—	令和元年度実績 (令和元年林業産出額: 農林水産省)
薪炭生産	千万円	223	22,940	1.0	28	
栽培きのこ類	千万円	4	389	1.0	—	
林野副産物採取	千万円	1,162	21,702	5.4	3	
林野副産物採取	千万円	12	461	2.6	8	
木材価格						
スギ(中丸太)	円/m ³	11,000	12,700	—	—	県 : 令和2年次県森連浮羽事業所実績値(径18~22cm、4m) 全国: 令和2年次実績(農林水産統計: 農林水産省)
ヒノキ(中丸太)	円/m ³	15,900	17,200	—	—	
緑化木						
生産本数	千本	4,029	56,444	7.6	3	県 : 令和元年度実績(林業振興課調べ) 全国: 平成30年9月現在(緑化樹木の生産事例調査: 林野庁)
生産額	億円	13	—	—	—	

注1 : 全国ランク・シェアは、全国の数値の統計年次・年度におけるものを示している。

注2 : 「—」印は、シェア算出又はランク付けに適さないもの。

注3 : 「年度」は4月から翌年3月まで、「年次」は1月から12月までを表す。

(5) 福岡県林業の全国的地位

区分				単位	全国シェア (%) 全国計	主産県				
						1	2	3	4	5
特用林産物	食用	きのこ類	えのきたけ	t	3.2	長野	新潟	宮崎	福岡	長崎
					128,974	78,111	20,100	5,646	4,119	-
			ぶなしめじ	t	12.4	長野	新潟	福岡	香川	静岡
					118,597	50,572	22,723	14,751	5,145	3,158
			7.4	新潟	静岡	福岡	長野	北海道		
			51,108	33,461	5,282	3,768	2,622	2,292		
			5.2	長野	新潟	広島	福岡	香川		
			37,635	14,976	12,655	-	1,942	1,426		
		その他	たけのこ	t	25.4	福岡	鹿児島	熊本	京都	香川
					22,285	5,653	4,830	2,863	2,511	975
非食用	木ろう		t	23.5	愛媛	長崎	福岡	石川		
				26	10	10	6	0.2		
	竹材	千 束	1.7	鹿児島	熊本	大分	高知	福岡		
			1,071	638	264	52	19	18		
	竹炭	t	58.5	福岡	熊本	鳥取	徳島	宮崎		
			447	262	37	32	-	-		
緑化木	生産本数		千 本	7.6	愛知	愛媛	福岡	東京	千葉	
				56,444	17,446	10,731	4,292	4,241	3,677	
	生産面積		a	20.1	福岡	熊本	愛知	千葉	東京	
				388,832	78,148	65,326	33,104	31,649	31,196	

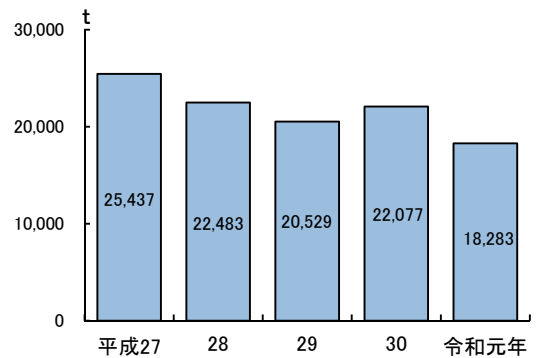
資料：（特用林産物）令和元年林野庁特用林産基礎資料・令和元年次実績
（緑化木）緑化樹木の生産事例調（林野庁）・平成30年9月現在

3 水産業

○海面漁業生産量

(海面漁業生産量(沿岸漁業)は前年比17%減の18,283 t)

- ・令和元年の本県における海面漁業生産量(沿岸漁業)は前年比17%減の18,283 t。
- ・主な魚種別の生産量は、来遊が少なかったマアジが、前年に比べ209 t減の845 t、サバ類が、前年に比べ537 t減の381 t。マダイは、ごち網漁業での漁獲が好調で、前年に比べ146 t増の2,045 t。
- ・主な漁業種類別の生産量は、中小型まき網3,077 t、さし網2,384 t、船びき網3,511 t、小型底びき網1,090 t。

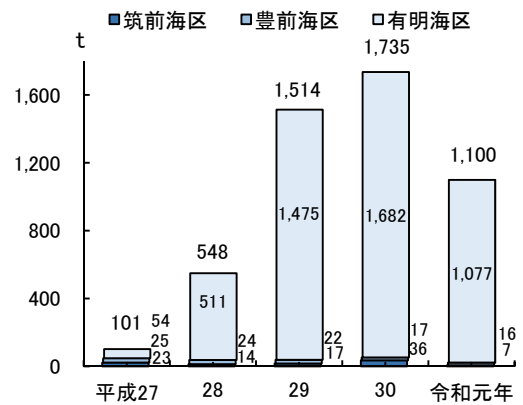


海面漁業生産量の推移

資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

(アサリ漁獲量は1,000 tを維持)

- ・令和元年のアサリ漁獲量は、平年比(過去5年平均比)138%の1,100 t。
- ・有明海区での資源管理の取組により、平成29年以降1,000 t以上を維持。
- ・豊前海区では、網袋を用いたアサリ稚貝の保護・育成の取組を、筑前海区では、稚貝の移植放流を実施。



アサリ漁獲量

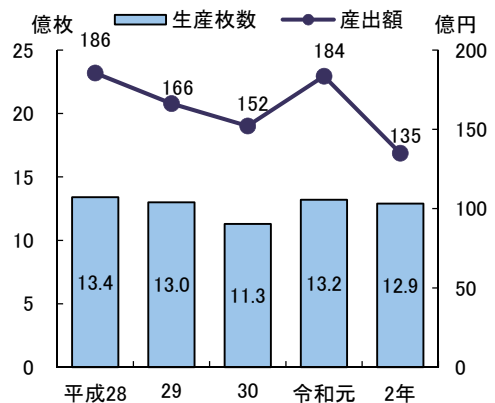
資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

注：四捨五入の関係で総数と内訳が一致しないことがある

○海面養殖生産量

(ノリ生産量は平年並みを維持)

- ・生産枚数は平年比(過去5年平均比)1%増の12.9億枚。植物プランクトンの影響で海水中の栄養塩が減少した時期があったものの、県による海況の把握と漁業者への養殖指導を徹底した結果、平年並みの生産枚数を維持。
- ・平均単価は、コロナ禍により需要が減少したため、平年に比べ2.37円安の10.43円/枚で、生産額は平年比80%の135億円。

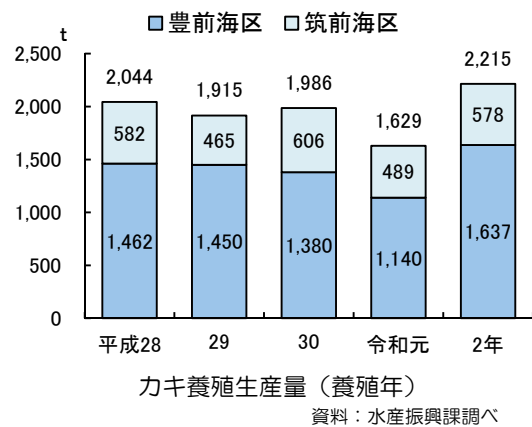


ノリ養殖生産枚数・額(養殖年)

資料：水産振興課調べ

(カキ養殖生産量は平年比 16%増の 2,215 t)

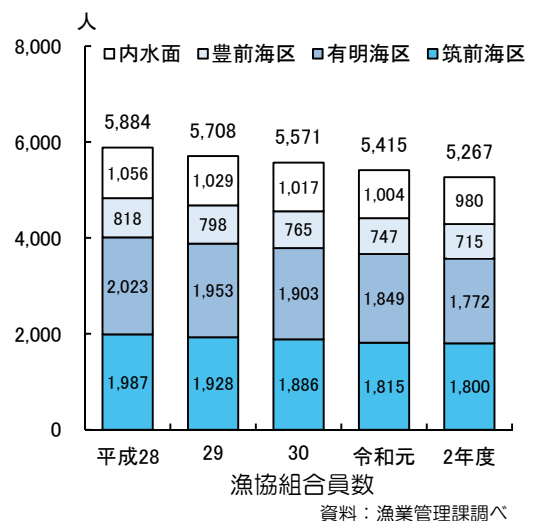
- ・カキの養殖生産量は平年（過去5年平均）に比べ 309 t 増の 2,215 t。
- ・これは、海況が安定していたことに加え、食害防止対策や養殖管理を徹底したことにより、へい死が少なく、順調に成長したことが要因。



○漁業協同組合員数

(漁業協同組合員数は 5,267 人)

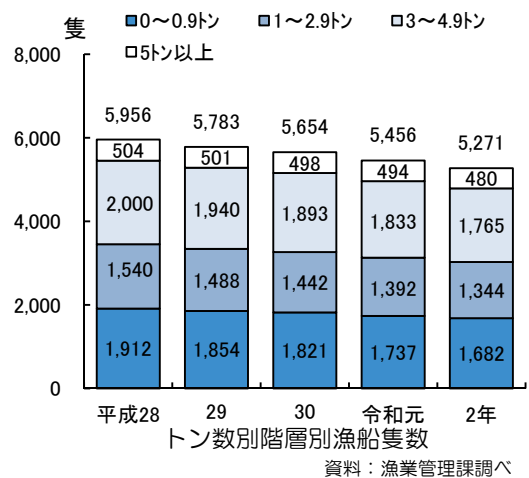
- ・漁業協同組合員数（内水面を含む）は、前年度に比べ 2.7%減の 5,267 人。
- ・筑前海区が 1,800 人、有明海区が 1,772 人、豊前海区は 715 人、内水面は 980 人。



○漁船隻数

(漁船隻数は 5,271 隻)

- ・漁船隻数は、前年に比べ 3.4%減の 5,271 隻。
- ・小規模漁業を営む 5t 未満の船が全体の 91% を占め、4,791 隻。



(1) 筑前海区

(サワラ、マダイは好調、カキ、真珠は平年並みを維持)

- ・令和2年度の漁船漁業の漁獲量は、来遊が少なかったマアジ、トラフグは平年を下回ったものの、マサバ、サワラ、マダイは平年を上回り好調。
- ・カキ養殖は、目立ったへい死はなく、生産量は平年並み。真珠養殖は、元年度に引き続き平年並みの生産。
- ・クルマエビ 136 万尾、アワビ 28 万尾、アカウニ 30 万尾、トラフグ 49 万尾の種苗放流を実施。



市場に並ぶサワラ

トピック

○直売所・カキ小屋で感染防止対策を徹底

- ・直売所やカキ小屋には多くの消費者や出荷者が出入りするため、新型コロナウイルスの感染防止対策が課題。このため、県では、直売所へのお荷者やカキ小屋を営業者に対し、感染防止対策を指導。
- ・従来は、直売所へお荷する多くの漁業者が、直売所でラベルを印刷し、商品に貼付していた。このため、糸島漁協では個人の作業場にプリンターを導入し、ラベルを貼った状態で直売所にお荷するよう改善。
- ・また、カキ小屋では、席数を減らし、消毒液スタンドや席の間仕切りを設置するといった感染防止対策を徹底。



作業場に導入されたラベルプリンター



感染防止対策を施したカキ小屋店内

(2) 有明海区

(ノリの生産量は平年並み、アサリ資源安定の取組を継続)

- ・有明海区のノリ養殖の生産枚数は 12.8 億枚で平年比 101%、生産額は 133.5 億円で平年比 80%、平均単価は 1 枚あたり、10 円 40 銭で平年比 2 円 80 銭安。
- ・アサリは、平成 27 年度以降、覆砂漁場で高密度に発生した稚貝の成長促進と生残率向上を図るため、漁業者が稚貝の移植や休漁日を設定。これらの取組により、平成 29 年以後、令和元年まで漁獲量は 1,000 t 以上に。
- ・一方で、2 年 7 月豪雨の影響でアサリの生息量が大幅に減少。資源の早期回復に向け、パーム椰子袋 5,000 袋や砂利袋 7,000 袋を設置して、稚貝を確保、親貝まで育成し、母貝場に移植する取組を実施。
- ・漁船漁業については、ガザミ、シバエビとも平年に比べ好調。タイラギの潜水器漁業は、9 年連続休漁。
- ・クルマエビ 99 万尾、ガザミ 133 万尾の種苗を放流。



上：パーム椰子袋

下：パーム椰子袋設置の様子

*パーム椰子袋：袋にパーム椰子を入れたもの。軽量で作業しやすく、泥の影響も受けにくい



砂利袋設置の様子

トピック

○高品質ノリの安定生産に向け、リアルタイムで海況情報を発信

- ・有明海では干満差が大きく、水深が浅いため、水温や潮位といった海況情報を把握し、適切な養殖管理をすることが必要。
- ・県では、平成 21 年度から、水温や潮位といった海況情報を、30 分間隔で携帯端末やパソコンで閲覧できる自動観測システムを運用。
- ・近年の漁場環境の変化に対応するため、令和 2 年度に設置した自動観測機器で、水温や潮位を 10 分間隔で観測。この情報を最新の通信方式でスマートフォンやタブレットに配信。漁業者は、このリアルタイムの情報を養殖管理に活用。



海況情報提供システム
「うみえる福岡」

(3) 豊前海区

(ブリ、マダコの漁獲が好調)

- ・令和2年度の漁船漁業の漁獲については、前年度に引き続き、ブリやマダコが好調。サワラ、コウイカは平年並み。
- ・カキ養殖は、海況にも恵まれ、成長、身入り、収穫量ともに良好。
- ・クルマエビ 289 万尾、ヨシエビ 324 万尾、ガザミ 82 万尾の種苗放流を実施。また、卵を持った雌のガザミは、甲羅に「トルナ」と書いて、海に戻す取組を継続。



好調のマダコ

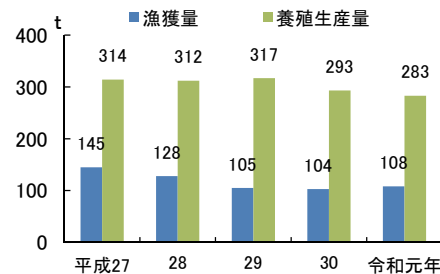


海に戻す抱卵ガザミ

(4) 内水面

(内水面漁業生産量は平年並み)

- ・令和2年度のアユやエツといった主要魚種の漁獲量、コイやウナギ、スイゼンジノリの養殖生産量は、それぞれ平年並み。
- ・アユ 41 万尾、エツ 38 万尾をはじめとした種苗を、県内の河川に放流。また、筑後川、矢部川ではアユの産卵場をそれぞれ3か所造成。
- ・コイヘルペスウイルス病 (KHV) は、養殖場や新たな天然水域での発生なし。
- ・錦鯉は、県が養殖指導を行い、ドイツ、アメリカ、インドネシアなどに輸出。



資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、
漁業管理課調べ



アユの産卵場造成

(5) 福岡県水産業の主要指標

項目	区分	単位	県合計	海面漁業			内水面	全 国 ランク	備 考	
				計	筑前海	有明海				豊前海
経営体数		経営体	2,434	2,386	1,226 ^{*1}	794	366	48	12	平成30年値 (2018年漁業センサス) *1:筑前海には遠洋・沖合漁業を含む
就業者数		人	—	4,376	1,917 ^{*2}	1,880	579	—	12	平成30年値 (2018年漁業センサス) *2:筑前海には遠洋・沖合漁業を含む
	うち男性	人	—	3,633	1,811	1,403	419	—	12	
	うち女性	人	—	743	106	477	160	—	8	
水域面積		km ²	—	—	約7,000	171	930	河川延長 2,205km	—	水域面積 (筑前海) ・隣接県との主要な陸地間、島間の中間線を結ぶ線に囲まれた本県漁船が操業する水域の面積
海岸線の長さ		km	—	—	420	47	109	人工湖 31か所	—	(有明海・豊前海) ・共同漁業権漁場の面積 (内水面)
最大水深		m	—	—	120	15	15	溜池 4,808か所	—	・県土整備部河川管理課資料 ・農林水産部農村森林整備課資料
共同漁業権免許件数		件	77	64	52	6	6	13	—	令和3年3月31日現在 (漁業管理課・水産振興課調べ)
区画漁業権免許件数		件	177	153	54	63	36	24	—	
漁船数		隻	5,271	5,114	2,121 ^{*3}	2,395	598	157	—	令和3年3月31日現在 (漁業管理課調べ) *3:筑前海には遠洋・沖合漁業を含む
漁協数		漁協	43	34	7	19	8	9	—	令和3年3月31日現在 (漁業管理課調べ)
漁組合員数		人	5,267	4,287	1,800	1,772	715	980	—	
漁生産量		t	67,036	66,700	66,700			336	19	令和2年値 (農林水産省「漁業・養殖業生産統計(概数)」、漁業管理課・水産振興課調べ)
	漁船漁業生産量	t	16,596	16,500	16,500			96	27	
	養殖業生産量	t	50,440	50,200	50,200			240	9	
漁産出額		百万円	29,267	28,897	—	—	—	370	16	令和元年値 (農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」、漁業管理課・水産振興課調べ)
	漁船漁業産出額	百万円	10,967	10,838	7,769	1,503	1,566	129	24	
	養殖業産出額	百万円	18,300	18,059	—	—	—	241	13	

注1：全国ランクは海面漁業の数値で比較。

注2：四捨五入の関係で、計と内訳は一致しないことがある。

(6) 福岡県水産業の全国的地位

区分 項目	単位	全国シェア 全国計	主産県				
			1	2	3	4	5
マダイ	t	12.8% 15,953	長崎 2,130	福岡 2,045	愛媛 1,400	兵庫 1,337	島根 761
イサキ	t	10.0% 3,359	長崎 1,002	福岡 335	山口 329	島根 229	和歌山 153
チダイ	t	16.4% 2,204	長崎 392	福岡 362	島根 185	新潟 137	和歌山 131
キダイ	t	4.3% 4,026	長崎 2,130	島根 733	山口 499	福岡 173	福井 118
アマダイ類	t	6.0% 1,241	山口 287	長崎 269	島根 123	秋田 94	福岡 75
ガザミ類	t	9.5% 2,209	愛知 532	宮城 334	福岡 209	愛媛 130	北海道 108
アサリ類	t	13.8% 7,976	愛知 3,880	北海道 1,360	福岡 1,100	静岡 872	熊本 339
クルマエビ	t	10.6% 320	愛知 83	愛媛 56	大分 50	福岡 34	熊本 17
ノリ養殖	生産枚数 (百万枚)	20.0% 6,455	佐賀 1,771	福岡 1,291	兵庫 1,158	熊本 898	宮城 373
	産出額 (億円)	20.0% 676	佐賀 200	福岡 135	兵庫 113	熊本 99	宮城 35
コイ養殖	t	9.5% 2,741	茨城 970	福島 830	宮崎 326	福岡 261	長野 127

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」、漁業管理課、水産振興課調べ

注：ノリは令和2年養殖年（令和2年10月～3年4月）を、その他は令和元年の数値を表示。